



# The PacBio は今 森林廃材をグリーンエネルギーに

## 古い諺に新たな意味 ～カナダのペレット業

オックスフォードの辞書によると「waste not, want not (無駄がなければ不足もない)」という諺(ことわざ)は、原料や資源を慎重に無駄なく使えば不足に陥ることはないという考え方に由来しています。Pacific Bioenergy Corporation (PacBio)の木質ペレット生産をこれほど言いた表現はないでしょう。

ブリティッシュ・コロンビア州では過去数十年来、伐採後に残された傘木や枝木、低級材、朽木はまとめて焼却されています。これはBC州の森林火災法(Wildfire Act)の要件に則した処理ですが、毎年春と秋には立ち上る厚い煙が数km先からも見えるほどで、焼却で発生した微粒子や有害物質が周辺コミュニティの空気を汚染することもあります。

この状況を、木質原料の調達と環境への貢献を同時にできる機会ととらえたのがPacBio。2007年からプリンスジョージの製材工場や伐採企業、地元の請負業者と協働し、forestry grinding (森林[廃材の]粉碎)というコンセプトを開発し、推進してきました。開始当初から請負業者数社が積極参加し、新たな技術や工程を導入しました。

以来PacBioは、これまで煙と消えていた林地残材167万トンを再生可能なグリーンエネルギーである木質ペレット130万トンに転換してきました。今日ではBC州の環境対策の実績と木質原料の責任ある利用を高く評価して下さるアジアやヨーロッパのお客さまに、同社製ペレットが届けられています。

PacBioのJohn Stirling社長兼CEOは「この13年間でトラック7万1000台分のチップ化した残材を、伐採地から当社の現地工場に搬入しました。サプライチェーン全体で雇用が創出されると同時に、地域の空気質を向上させています」と話しています。

しかしこうした結果に至るまでには、同社にも請負業者にも、さまざまな学びがあったといいます。

「木質チップ運搬トラックを、製材工場やパルプ工場との往来[のみ]でなく、作業用の砂利道を伝って森の奥深くまで送り込んだ」とStirling社長。そのうえで「実は貴重な産物である残材を然るべく取り扱うための方法、すなわち新たな処理方法を習得する必要がありました」

「我慢も必要でしたが、これが長期的な可能性を秘めた新たな機会であることは初めから明白でした。BC州でグリーンエネルギーの機運が高まる中、林産業の役割は大きい」と語るのはExcel Resources社マネジャーのKeith Brandner氏。「新たな方法で地元の森林からより多くの価値を引き出し、地域にも世界にも確実に変化をもたらす。当社はそうした地方企業の好例だと思えます」と言います。

市場専門家は2027年のペレット需要は約5100万トンに達し、2019年比で40%増となると予測していますが、貴重な天然資源を有効に活用すればこの需要は満たせます。PacBioは木質原料の責任ある利用と、あらゆる段階で価値を引き出していく革新的なペレット生産を信念とすることで、そのニーズに応えているのです。

